

# 佐賀短期大学

## 評価短期大学の概要

設置者 学校法人 永原学園  
理事長 福元 文香  
学 長 福元 裕二  
A L O 堀 勝治  
開設年月日 昭和 38 年 4 月 1 日  
所在地 佐賀県佐賀市神園 3 - 18 - 15

## 設置学科および入学定員

学科	専攻	入学定員
食物栄養		80
生活福祉		70
幼児教育		90
くらし環境		50
	合 計	290

## 専攻科および入学定員

専攻	入学定員
福祉	30
食物栄養	10
	合 計 40

# 機関別評価結果

## 1. 機関別評価結果

佐賀短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 18 年 3 月 23 日付で適格と認める。

## 2. 機関別評価結果の事由

昭和 29 年に創設された学校法人永原学園は、佐賀短期大学の他、大学、専門学校、幼稚園等を設置する総合学園である。当該短期大学は、昭和 38 年、食物栄養科のみの短期大学として開設されたが、現在は、食物栄養学科、生活福祉学科、幼児教育学科、くらし環境学科の 4 学科、及び福祉専攻、食物栄養専攻の 1 専攻科 2 専攻の体制に移行している。

当該短期大学は、創立者によって起草された建学の精神「高度の知識を授け、人間性の高揚を図り、専門知識と応用技術をもって社会に貢献し、世界文化の向上と人類福祉に寄与する人物を養成する」を支柱とし、「学生が自らの可能性を信じ、自身の力によって己の才能を開花させる、すなわち自己啓発」の力を「あすなろう」という言葉に象徴させ、それをもって教育理念としている。

平成 17 年 1 月 20 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

明確な建学の精神が打ち出され、今日まで一貫した姿勢がうかがえる。また、教育目的・目標に関しては、教務委員会を中心に随時カリキュラム内容に点検が加えられている。自己点検・評価委員会も組織化され、自己点検・評価報告書を作成し広く教職員・学生に配布されている点からもその努力が見受けられる。

教育の内容、教育課程に関しては、専門科目に専任教員が適切に配置され、各学科では取得可能な資格の受験に結びつくカリキュラムが組まれている。ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会の組織化やスタッフ・ディベロップメント(SD)活動として学生からの評価アンケートも実施されており、ニーズへの対応努力がみられる。また、学生による授業の評価と授業に関する意識調査が毎年実施されている。資格取得の実績も良好で、各学科・専攻科ともに就職率は非常に高い。

学生支援として、入学時・学期毎に各学科でオリエンテーションが実施され、学生便覧に則り細かな指導がなされている。また、学生生活支援の一環として、126名収容の女子寮が完備されている。メンタルヘルス・カウンセリング体制として、保健室（健康相談）・学生相談室（カウンセリング）を設置し、対応している。

社会的活動の面では、健康福祉・生涯学習センターを中心として社会人を受け入れており、公開講座の他、公開科目も設定している。更に、佐賀県をはじめ、佐賀市等の委嘱を受け、各種の審議委員等、地域社会に多数の教員が関わっている。学生はボランティア関連の授業による単位取得にとどまらず、地域でのボランティア活動にも取り組み、人間性の育成に役立てている。

理事長並びに学長は、それぞれリーダーシップを発揮している。また、書類管理・情報システムのセキュリティ対策等も概ね良好である。

財務運営は、学校法人会計基準に基づき適正に行われている。中間監査・決算監査が適正に行われ、収支は均等に推移している。

自己点検・評価は、自己点検・評価検討委員会が実務的に中心となり取りまとめている。この委員会の委員は、各学科教職員から輪番制で選出され、全員が関わる体制をとっており、資料の収集・文書作成等に全員参加の形で取り組んでいる。また、平成14年には、第1回目の相互評価を実施している。

### 3. 優れている点及び向上・充実のための課題

#### (1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- ・ 教育理念を具現化するために「あすなろう」(必修)という科目を設定し、授業として展開している。

評価領域 教育の内容

- ・ 地域社会との活動を展開しており、ボランティア体験を取り入れている。
- ・ 教育課程の改善やFD研修会等を行い、その報告書をまとめ、学生のニーズに応えようと努力している。
- ・ 各学科に複数の資格が用意され、学生の努力次第で多くの資格が取得できる仕組みになっている。

評価領域 教育の実施体制

- ・ 教育研究に使用できる情報機器によるネットワークが最新のシステムであり、教員・学生ともに使用可能である。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

- ・ きめ細かな学生指導により、退学者や休学者が減少傾向にあることは望ましい。

評価領域 学生支援

- ・ 学校法人全体で学園就職対策委員会が組織され多くのメンバーが支援体制を組んでおり、学内でも進路委員会・学科就職対策会議が設けられ、毎年就職率が非常に高い。
- ・ 外国人留学生に対し生活支援金が支給され、社会人や長期履修生については授業料を半額とした優遇措置制度が設けられている。

評価領域 社会的活動

- ・ 平成 15 年の特色ある大学教育支援プログラム(特色 GP)の採択を受け、過去何年にもわたる地域高齢者と学生のコラボレーションが効果を上げ、教員や学生にも好影響をもたらしている。

## (2) 向上・充実のための課題とその事由

評価領域 教育の内容

- ・ 学生の授業評価や自己評価から見るとシラバスの活用度は低く、今後、シラバスの積極的活用を前提とした教育の工夫が望まれる。

評価領域 教育の実施体制

- ・ 図書館の改善・充実が望まれる。

評価領域 学生支援

- ・ 授業料等の表示は、学生や保護者にわかりやすいよう、配慮されたい。

評価領域 財務

- ・ 幼児教育学科における定員超過を是正されたい。

## (3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし